

事例3. 一品受注型企业への一気通貫生産方式導入

企業概要・取組み期間

- ・内燃機関メーカー A(従業員2,500名)
- ・船舶搭載用内燃機関の設計、製造
- ・活動期間: 4回/月×2年間(3年目は設計効率向上に取組む)

改善活動の背景

- ・製品仕様が非常に多く生産パターンが際限なく増え続け、生産管理では管理出来ない状況になり、現場任せ生産の状態であった。
- ・設定工数と実工数の間に大きな差異が発生していた。納期直前に工数を投入して作り上げるドカン生産の状態であった。
- ・生産計画の変更も頻繁にあり生産現場、調達部門は日々混乱した状態で納期も長期化する傾向であった。

目指す姿

- ・信頼できる生産計画作成と計画通りの生産が実行できる体質
- ・理論工期通りの生産日程による滞留のないモノづくりの実現
- ・生産リードタイム半減で仕掛削減と工場スペースの確保
- ・労働生産性20%向上

主な成果

- ・製造リードタイム短縮 35%~56%短縮実現(品種により異なる)
- ・生産能力100%向上達成(主力ラインで従来比2倍の生産台数達成)
- ・労働生産性25%向上(出来高標準工数/総投入工数)

